

インターネット 「岸和田市立浜小学校」 校長室だよりで、バックナンバーがみられます。

校長室だより



H24 (2012) 年度 NO.3

岸和田市立浜小学校 渡瀬 克美

本年度「第1回学校協議会」 を開催しました！

去る6月27日、本校において、浜小学校「学校協議会」を開催いたしました。まず、どのような組織なのかからご説明いたします。設置は岸和田市教育委員会です。

1. 目的は、

学校は、保護者や地域住民との協力・連携を促進し、教育活動や学校運営の改善を図ることが大切である。保護者や地域住民の意向を的確に把握した学校運営を行うとともに、学校に関する情報を積極的に発信していくことが必要である。

このため、保護者や地域住民等が校長の求めに応じて参画し、意見交換や提言を行う「学校協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。協議会においては、校長は、自らの権限と責任において学校運営に関する必要な事項を決定するに当たり、協議会に意見を求め、参考とする。



2. 設置及び運営（骨子）

校長は、岸和田市立「学校協議会」実施要項に基づき「学校協議会設置要項」を定め、協議会の運営計画を策定し、協議会を実施する。幼稚園は、併設されていることから小学校の協議会が兼ねることができる。委員は学校外の人材を確保し、校長が委嘱し、協議会は年間3回以上開催する。原則公開とするがプライバシーの侵害のある場合は非公開も可。委員は校長の求めにより、個人のプライバシー等について守秘義務を負う。

3. 実施校の報告

校長は、協議会の設置後「学校協議会設置要項」を速やかに教育長あて提出するものとし、年度当初は「学校協議会運営計画書」及び「学校協議会の委員名簿」を、年度末には「学校協議会報告書」を教育長あて提出するものとする。

というように、平成16年から岸和田市全校園で実施しています。本校では、

委員長に 山本 義治 様（元浜地区連合町会長）、

委員に 梶野 郁子 様（学識経験者）、そして、

委員に 小藤 和三 様（PTA会長）の3名と

校長、教頭、田中寛治指導教諭、上田京子幼稚園主任の計7名に

よって構成しています。年間の予定では、

11月に教育活動の進捗状況と提言。

2月に今年度の教育活動の反省と来年度の重点課題と運営改善について協議を行う予定です。



さて、今回は私から学校経営方針について、今年度の重点課題である、「この先生でよかった」よりも「このクラスでよかった」といえるクラスにするためにはどの学年・クラスも同じ授業をしなければ目的を達成できない。そこで今年度は授業改善と授業評価に取り組むことについてご説明いたしました。そのことにより子どもたちに「確かな学力」と「仲間意識を育てること等が可能」になると考えています。

生活面では、朝の「おはようございます」のあいさつがなかなかできないことなどもお話ししました。それでは、委員の方から出ましたご意見を簡単にご紹介いたします。

- ・授業改善と授業評価については、概ね分かった。子どもが授業中に騒ぐのは、「わからん」こともある。先生には「分かるように」頑張ってもらいたい。
- ・子どもたちの生活については、低学年の子どもは家庭教育との関連が深いのではないかと。家庭で「おはよう」「おやすみ」などの会話を家族みんなが行うことが必要である。これらのことは家庭でしなければならない。『家庭のしつけの問題』である。家庭できちんと教えると学校にきたらあいさつできるはずである。
- ・祭りでの各町の青年団の若者の「あいさつ」は「大きな声で」、やってるんです。
- ・連絡帳など保護者は見てるのかな？学校からの手紙が保護者にわたってるか？自分の子どもを育てる力が弱くなっている。親としてできることをしっかりしないといけない。
- ・この地域の特性として、『叱られる』ことにアレルギーはないから「アカンことは アカンと指導してほしい」。「ダメなことはダメなんだから」しかし、なぜ、だめなのかをきちんと子どもに分かるように伝えて欲しい。理由を考えさせるときに社会人としての基礎が養われる。
- ・運動会等を見ていると、共同・協力しながら準備から片付けまでを一生懸命させている。このような力が将来に大きな力になる。「だんじり祭」の翌日の早朝からの片付けをみるとみな懸命に働いている。これができる限り、祭りは少子化の中でも続くだろうと思う。
- ・浜ではたて社会の中で育ってきた。しかし現代の少子化の中、学校で「たてわり活動を組織」しないといけない時代になってきているのも確かである。
- ・低学年の先生にお願いしたいことは、子どもと一緒に休み時間遊んでやってほしい。
- ・小学校教育でお願いしたいことは、大人になった時役に立つように、生活の基本的な常識を身につけてやってほしい。それは、友達を助けることであったり協力することであったりする。

「すずめ100まで踊り忘れず」のとおり。
最後に次のようなステキな言葉もいただきました。

「私は、あなたの宝物、あなたは、私の宝物」ゲーテ

こんな気持ちで子どもと接することができる親子や先生と子どもの関係でありたい。
たくさんのご提言ありがとうございました。



右の写真を見てください。まるでトンボのように見えませんか？
実は2年生の女の子R.Kさんからいただいたものです。
聞くと、お休みの日に、自然史資料館で草を材料に作ったとのことでした。

親子で行ったんですね。いいですね。
手作りのトンボ、本物のようです。

学芸員の方に教えていただきながら、ていねいにていねいに、
作ったのでしょうか。

素晴らしい親子です。文化的な豊かな時間が流れています。

「子育てを楽しんでいる」そんな親子の姿が想像できます。畑づくりで、いい作物をつくるためには、まず、土づくりが大切であるという話をふと思い出しました。子育ても同じですね、このような文化的なかかわりが情操教育をはぐくむのですね。

ありがとう。

